

第11・12回ノーバディズ・パーフェクト・プログラム 事前講習会

田磨 亜希¹⁾

はじめに

本学では、教育活動そのものが地域貢献となる学校をめざそうという活動に取り組んでおり、2018年度で12回目の開催となったノーバディズ・パーフェクト・プログラム（以下、NPプログラムと略記）は、そのような活動の一環として実施されている。

NPプログラムは、0歳から5歳までの子どもを持つ親のためのプログラムであり、必ず託児をつけることが条件となっている。これは、プログラム参加者である親の体験を通した学びに安心して参加することができる場の確保が重要だからである。つまり、参加者の安心を確保するためには、プログラムの内容と同等に託児が重要な意味を持つことになる。

NPプログラムに学生が託児者として参加することの意義は、①学生が社会に貢献する基礎力を身に付けていく②日頃、関わることの少ない乳幼児期子どもたちとのふれあいを通して、発達過程を体感するとともに、乳幼児育児への興味・関心を高める③対人援助の実践活動についてのノウハウを学ぶということである。学生が安心して託児を行い、それを成果につなげていくために、NPプログラムファシリテーターの金子留里先生と“海田子育て支援サークル くすくす”から講師をお招きして、事前講習会を行った。

【NPプログラム事前講習会】

1. 実施概要

第11回NPプログラム

- (1) 日 時：2017年9月27日 9：10～11：30
- (2) 場 所：心理教育相談センター

1) 広島文教女子大学人間科学部心理学科

2F演習室・1Fプレイルーム

- (3) 講 師：（敬称略）

【NPプログラムファシリテーター】金子留里

【海田子育て支援サークル くすくす】森本伸子・森内英子・山口知美・加茂美由紀

- (4) 参加者：（敬称略）

【学生スタッフ】山床里朋・中村遥・楠章加・若狭侑・明比菜由・安藤裕子・遠藤揺旺・川口莉佳・柴川真希・杉原由華・中島萌々子・中津有基

【運営スタッフ】植田智・平原明日香・兼田知美

第12回NPプログラム

- (1) 日 時：2018年9月26日 9：10～11：30
- (2) 場 所：心理教育相談センター

2F演習室・1Fプレイルーム

- (3) 講 師：（敬称略）

【NPプログラムファシリテーター】金子留里

【海田子育て支援サークル くすくす】森本伸子・井上和美・山口知美・加茂美由紀

- (4) 参加者：（敬称略）

【学生スタッフ】石田真穂・大下綾香・大屋咲穂・岡本夏奈・小川紋・金田夏実・河村真那・木下みのり・高口夏実・田邊萌子・西本有希・平野優・中村遥・錦織伶奈・西谷綾子・前田花恋

【運営スタッフ】植田智・平原明日香・田磨亜希

2. 実施内容

(1) NPプログラムの概要説明

NPプログラムは、1980年代カナダではじまったプログラムであり、2002年より日本でも実施されはじめた。カナダでは0歳から5歳の子どもを持つ親のうち、貧困層、移民、若年などの様々な保護者に対し行われるものであるが、日本でのNPプログラムは0歳から5歳の子どもを持つすべての

と注意点に関する説明があった。

親が託児者に子どもを預け、安心してプログラムに参加するには、託児者と親の信頼関係が欠かせない。託児受け入れの際と帰りの見送りの際の託児者と親とのコミュニケーションが信頼関係を築く上で重要な機会となる。託児受け入れの際には、持ち物を確認し、当日朝の子どもの様子や数日中の家庭での様子を聴く。帰りの際には、託児中の子ども様子を伝えたり、親にプログラムの感想をたずねてみたりすることによって、コミュニケーションをとっていく。

また、託児を初めて経験するという子どもも少なくないため、親を送り出す際には、激しく泣く子どももいること、子どもの不安な気持ちに寄り添いながら託児をすることなどがあがった。

業務確認を終えた後、講師がそれぞれ、親役、託児者役に別れ、託児の受け入れと送り出しの様子のロールプレイを行い、学生は託児の流れをつかんでいた。

④ 乳幼児とのかかわり方

赤ちゃん人形を使用し、赤ちゃんを抱っこする練習（図2）を行った。学生たちが練習に取りかかえる前に、講師による実演が行われた。設定では、まず、赤ちゃんにミルクをあげ、飲んだ後に空気が入ってしまうのでげっぷをさせるというものだった。講師の実演後、学生たちはそれに習うように赤ちゃん人形を抱っこし、げっぷをさせる練習を行った。



図2 赤ちゃん人形で抱っこの練習

⑤ 託児体験で大切にしたいこと

講師が所属している“海田子育て支援サークル

くすくす”が携さわった託児のアンケートを読み、学生たちに託児に子どもを預ける親の気持ちを知ってもらい、その感想をグループで共有し、発表した。子どもを託児に預ける親たちの声に触れた学生からは、「託児の経験が少なく自分も不安を感じているが、初めて子どもを預ける親や初めて親と離れる子どもはそれ以上に不安だと分かったので、安心できる雰囲気を作る努力をしていきたい。」などの意見が出た。

講師より、参加者が安心してプログラムに参加できるように、託児者は大きく分けて三つのことに気をつけていく必要があることが説明された。まず、一つめは“安全”である。ケガ・事故がないことが最も大切であり、危なそうなときは子どもから必ず目を離さない、どうしても、目を離さないといけない時は、近くにいるスタッフに必ず声をかけ、協力を仰ぐことが大切である。また、二つめは“安心”である。笑顔で楽しく託児を行うことが、親にとっても安心につながる。親・子どもの気持ちによりそい、楽しく時間が過ぎせるよう、子どもの目線に立ち、一緒に遊び・学ぶことが大切である。そして、三つめは“適切な対応”である。子どもは親と離れるとき、どうしても泣いてしまうことが多いが、託児は一人でするわけではないので、困ったときは抱え込まず、誰かに相談すること。プログラムは託児スタッフ・NPプログラムファシリテーターのみなで行う。お互い声を掛け合い、プログラムをよりよいものにしていくことが大切であると学生たちに説明された。

おわりに

託児経験がほとんどない学生も含まれていたが、授業等で学んできたことを思い出しながら、懸命にワークに取り組んでいた。そして、子どもを預ける親や初めて親から離れる子どもの目線になって考え、託児者としてどう振る舞うべきかを考える機会となった。また、グループワークを通じて、学生同士の連帯感が生まれ、実際の託児の際にもお互いを信頼し、協力し合える関係性の土台となった。さらに、共通の注意事項を確認できたことで、チームとして安心して仲間を信頼し、託児に臨める場になったと考える。

事前講習会後の学生からは、「事前講習を受けて、保護者の方が子どもを預けることに罪恶感や不安を感じている人が多いことに驚きました。」や「保護者の方が安心できるように、今日学んだような前向きな言葉がけをしていきたいと思えます。」というような感想があがった。

1回目の託児では、親と離れて激しく泣く子どもに対して、申し訳ないような不安な気持ちを抱えていた学生たちが、2ヵ月間の託児の中で、子どもの個性を捉え、それぞれに工夫した対応を行っていた。さらに後半では、より広い視野が持てるようになり、仲間と協力しながら担当の子どもだけでなくほかの子どもと遊ぶ姿も見られた。また、親からも安心して任せているといった声をかけてもらい、自信につながっていったこと

は、事前講習会での学びなしでは達成されなかったと考える。

学生たちはこの度の託児を通して、乳幼児の託児についてだけでなく、子どもの成長には個性があることや親の子どもに対する想い、周りの人と協力して子育てしていくことを学び、体験したと感じる。

子ども達の様子に目を配るだけでなく、学生一人一人に心を配り、学生たちの不安な気持ちに寄り添い、丁寧にご対応くださった“海田子育て支援サークルくすくす”のスタッフの方々に厚くお礼を申し上げたい。学生たちにとって、くすくすの皆さんから頂いた温かいご指導・ご支援は、今後の社会生活で大きな支えとなると考える。